

ハ ワ イ 便 り

古 畑 正 秋*

マウイ島のハレアカラ山上(3000 m)に建てられたハワイ大学地球物理学研究所の太陽観測所がこのほど完成して、1月24日開所式が行なわれた。ドーム内には昨夏コロラド州ボルダーにある High Altitude Observatory から運ばれて据えつけられた K コロナメーターがある。この山上は1年を通して天気の状態が非常によいので、今後の活躍が期待できる。

この観測所はミース太陽研究所という名前がつけられた。ミース氏は長くコダック会社の研究所にいて、天文愛好者でもあったので、天文用の写真乾板を開発した人であって、天文学者はその功を多としている。1950年引退後ハワイに住んで、1955年にここでなくなっている。ハレアカラに天文施設を作るについて、経済上でも少なからぬ援助をしてきた由である。

マウイ島はホノルルから飛行機で30分、飛行場から自動車で1時間余り、極めて簡単に3000 mの高峰に達することができるので、高峰という感じがしないほどである。真冬でも霧下になることは珍らしいほどの恵まれた気候なので、観測者にとっては乗鞍などと比べると楽天地である。開所式は戸外で行なわれたので風がかなり強く少し寒かったが、ここの観測所主任のコワルスキー氏は半袖シャツで出て来て参加者を驚かせたほどである。

山上には1961年にできた大気光観測所(天文月報55巻10号参照)、及びスミソニアン天体物理観測所所属の人工衛星観測所がすでにあるので、今度の太陽観測所を加えて、ハワイの天体観測の中心になった感じである。この観測所の中には宇宙線観測器械などもおかれている。さらに本年度中にはミシガン大学が60インチ反射鏡、48インチの追跡用望遠鏡2台を持つ天文台をすぐ近くに着工する由で、ますます賑かになるようである。

一方ハワイ島のマウナケア山に月・惑星観測天文台の計画が進められている。この山はハワイ最高の高峰で4200 mもある。アリゾナ大学の月・惑星研究所のカイパー博士が昨夏に次いで今月もハワイへ来て、色々の交渉をやって行った。一番問題になるシンチレーションがまだはっきりしないので、今夏から半年ないし1年間その調査観測を行なって最終決定を行う由である。

この最高峰は施設を作るのに多少困難があるので、天文台はその東北にある第二峰がよさそうだとの話である。

この標高は3760 mで、ちょうど富士山と同じくらいの高さである。この峰へは途中までジープの道しか現在ないが、天文台が決定すれば、地元で道路を作るなど、かなり協力的ようである。ハワイ島は有名なキラウエア火山で売っているが、さらに名所がふえれば観光にも役立つことであろう。この山はハレアカラ山からも富士ではないが、いつも頭を雲の上に出して、よく見えている。

これはまだ希望的観測に過ぎないと思われるが、ハワイ島南部に月ロケット発射場を作るという話しが新聞に出ている。ここはアメリカとしては最も低緯度にあるので、NASAでその可能性を検討しているということである。ひょっとすると月旅行出発地になるかもしれないというので、地元では大いに関心が持たれることであろうが、ハワイ州選出の井上上院議員などが盛んに働きかけているようである。月・惑星観測所の誘致にしても、月ロケット発射場の話にしても日系市民が大いに働いているのは注目される。(1964年2月4日)

大塚奨学金支給者きまる

昭和38年度の大塚奨学金は、申込みのあった2名の会員について、昭和38年10月12日仙台市において選考委員会を開いた。その席上での選考委員の意見により、その後さらに研究題目やそれに関連して、内地留学希望の研究機関の望遠鏡その他の施設などについて資料を確認した結果、北海道札幌市市立天文台勤務の林耕輔氏に本年度の大塚奨学金を支給することに決った。

同氏の研究題目は、木星の模様—木星面の写真撮撃による色指数測定、および関係文献の調査蒐集となっており、京大花山天文台その他関係ある研究機関での研究を希望されている。

* 東京天文台、ハワイ大学